

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	愛媛県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	西条市立 玉津小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	3	3	1	18	26
児童数	86	81	93	75	95	98	4	532	

II 研究の概要

1. 研究主題

<p>豊かな心を持ち、主体的によりよく生きる児童の育成          — 確かな学力の向上のための個に応じた指導を通して —</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～6年・算数 14年度より取り組んでいる「個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫改善」の研究を進めるため。</li> <li>・ 5～6年・理科・音楽・図工・家庭・体育 教員の得意分野を生かした教科担任制を導入するため。</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 確かな学力の向上のための個に応じた指導</li> <li>○ 研究の仮説             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫改善を行い、主体的な学習を進める工夫を実践していけば、基礎・基本が定着し、自ら学び自ら考え、主体的によりよく生きる児童を育成することができるであろう。</li> <li>(2) 教員の得意分野を生かした教科担任制を導入することにより、教材研究を深め、教材の開発や工夫をすることにより、児童に分かる楽しさを体験することができ、学習意欲を高め、主体的に学ぶ児童を育てることができるであろう。</li> </ul> </li> <li>○ 研究の内容・方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 研究方法・体制についての共通理解 児童の実態を把握し、学校の教育目標や教育方針を明確にして、共通理解を図る。</li> <li>(2) 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善                 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 少人数学習（算数科 4～6年）                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の希望や習熟の程度に応じて、1クラスを2つに分けて指導する。担任とTT教員との連携により、進度や学習内容を工夫しながら実施する。</li> </ul> </li> <li>イ コース別課題選択学習                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～3年は「分かる授業・楽しい授業」の構築のために、児童の発達段階や単元の特色を生かした課題選択学習（児童の興味・関心に応じた指導）の導入</li> <li>・ 4～6年は、3学級を4つの学習集団に分けるなど、学級の枠を超えて習熟の程度等に応じた学習集団を編成し、担任とTT教員が指導する。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
--------	---

	<p>(3) 主体的な学習を進めるための工夫</p> <p>ア 単元指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が主体的に学ぶ単元構成の工夫と教材の開発</li> <li>・ 発展的な学習や補充的な学習を導入し、個に応じて主体的に学習を進められるような単元構成の工夫</li> </ul> <p>イ 評価計画と支援のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意欲を持って学習が進められるような適切な評価計画と支援を行い、その児童の変容を記録しておく</li> </ul> <p>ウ 算数的活動を取り入れた授業の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人が自分の考えを持って主体的に思考できるための算数的活動の工夫や、教材の開発</li> <li>・ 教育機器の利用（コンピュータの活用）</li> <li>・ 思考力や表現力を高めるための授業展開</li> </ul> <p>(4) 教科担任制の導入</p> <p>ア 評価基準の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年全体を同じ評価規準で評価できる利点を生かし、個に応じた指導をきめ細かく行う</li> </ul> <p>イ 専門性を生かした教材研究の深化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の得意分野、専門性を生かし、教材研究をより一層進め、「わかる授業・楽しい授業」を進める</li> </ul> <p>(5) 総合的な学習の時間の充実</p> <p>ア 体験活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然体験・社会体験・勤労生産体験を発達段階に応じて、各学年で工夫する。</li> </ul> <p>イ 地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人材の活用や、共同活動、地域の文化・伝統行事の継承を取り入れる。</li> </ul>
--	--

平成 16 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 平成 15 年度と同じ</li> <li>○ 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 15 年度の研究を一層深めていく。15 年度中に 16 年度の研究方針を提示し、一層の共通理解を図りながら、進めていく。</li> </ul> </li> <li>○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 15 年度の研究を一層深め、特に「習熟度別少人数指導」の研究と充実を図る</li> </ul> </li> </ul>
----------------	---

(3) 研究推進体制

研究の全体構想は、次ページに示します。

研究の全体構想

学校の教育目標・児童像  
キラキラ ピカピカ みんなと あくしゅ  
えがおと やるきで じぶんに ちょうせん

○教職員・家庭・地域の  
願い  
○フロンティアスクール  
としての役割

児童の実態  
・体験的活動を好む  
・興味関心のあることは積極的  
・自分の考えや気持ちを表現  
することが苦手  
・基礎基本が確実に身に付いて  
いない児童がいる

研究主題  
豊かな心を持ち、主体的によりよく生きる児童の育成  
—確かな学力向上のための個に応じた指導を通して—

研究のねらい

確かな学力向上

○ 算数科を中心に、児童一人一人に応じたきめ細やかな指導  
や、基礎的・基本的事項の定着を図るための研究を通して、  
一人一人のよさや可能性を伸ばし、確かな学力の向上を図る。

教  
職  
員  
の  
共  
通  
理  
解

保  
護  
者  
・  
地  
域  
と  
の  
連  
携

わかる授業・楽しい授業の創造

研究の重点

- 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善
  - ・少人数学習
  - ・コース別課題選択学習
- 主体的な学習を進めるための工夫
  - ・単元指導計画の工夫
  - ・評価計画と支援のあり方
  - ・算数的活動を取り入れた授業の工夫
- 教科担任制
  - ・評価規準の明確化
  - ・専門性を生かした教材研究の深化

各教科・総合的な学習の時間・道徳・特別活動との関連

基礎・基本研究部会

評価計画研究部会

指導方法研究部会

地域に開かれた特色ある学校

### Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- (1) 教育課程実施状況調査（h15, 2, 18実施）より、4月に5年の算数の正答率を全国平均と比較して考察して、早い段階で今後の研究の方向性を示唆できたことは、よかった。  
実態として、計算力等の技能が劣り、習熟不足が考えられる。また、数学的な思考力に欠ける。関心・意欲は高いが、主体的な学習を進めることができない。等の課題が明確になった。  
少人数学習や習熟度別学習等により、確かな学力を身につけさせることができるように、引き続き「分かる授業、楽しい授業」を実践する必要があることが、共通理解できた。
- (2) 全学年が研究授業に取り組み、少人数学習や、コース別課題選択学習の研究ができた。着実な取組を実践していく中で、児童一人一人の学びの要求に応じた学習活動の展開ができた。
- (3) 「わかる授業・楽しい授業の創造」のために、個に応じた指導方法・指導体制の工夫を中心に実践する中で、教材の選定や学習活動、学習形態、学習環境などに様々な工夫を凝らしていくことにより、個々の児童の興味関心、問題意識の持ち方、調べ方や追求のしかたなどに見られる違いをその児童のよさや可能性として受容し、それぞれの持ち味を最大限に発揮できるように工夫できた。
- (4) 指導と評価の一体化を進め、指導に生かす評価が可能となるような指導計画を立てて授業を実施し、個に応じた指導の充実に努めることができた。
- (5) 教職員の共通理解のもと、様々な特色ある取組の実践ができたことは、大きな収穫である。

#### 2. 今後の課題

- (1) 反復練習や補充問題の成果が出て、計算等の技能は身に付いたが、論理的な思考力に劣るため、思考力を育てるための指導方法や指導過程の工夫改善が必要である。
- (2) 主体的な学習を進めるための単元指導計画や、評価の研究の充実が一層必要である。
- (3) より充実した少人数指導やコース別課題選択学習を進めるために、加配教員の増員が望まれる。

### Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

全学年が2月5～6日に標準学力検査を実施し、全国的なデータと比較検証していく予定である。

・5年	(算数・国語・理科・社会)	CRT教研式標準学力検査
・4・6年	(算数・国語)	学研式標準学力検査
・1・2・3年	(算数)	学研式標準学力検査

### Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* 交流研究会の実施 平成15年6月11日 14:15～16:40  
6年算数 単元名「立体」 少人数指導（担任と加配教員による）  
東中・飯岡小学校との連携を図り、交流研究を行った。  
西条教育事務所指導主事 浦江賢治先生の指導助言をいただいた。
- \* 西条市教育研究委員会において、研究の実績報告を行い、年度末に冊子を作成して、西条市内の学校に配布する予定である。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T.Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無